

つまりこゝも京都の風俗風習と全く異なる太宰の地の様子の実景を描写することに力点があるのではなく、京の文化がこの地には全く及んでいないことを中国古典籍の詩語を借りて繰り返し述べているところと解する。

○遺臭…悪名を後世に残す。ここでは単に「悪臭が遺る」の意。

『晋書』「桓温傳」に「温以雄武專朝、窺覩非望、嘗撫枕曰、既不能流芳後世、不足復遺臭萬載耶」の用例がある。

80 ○琴聲…琴の音。「梁元帝」の「東宮後堂仙室山銘」に「鳳依桐樹、鶴聽琴声」の一文が見える。『漢語大詞典』には類語の「琴音」を挙げ「琴的樂声」との説明があり『史記』「田敬仲完世家」の「故曰琴音調而天下治」を載せる。また「琴瑟」を「指琴瑟之声、古人以之為雅樂正声」と説明し『荀子』「非相」の「聽人以言、樂於鍾鼓琴瑟」の用例を載せる。

『菅家後集』「496 奉哭吏部王」に「世間自此琴聲斷、不獨人啼鬼亦啼」の句が見える。

○改絃…「絃」は「弦」。弦樂器の弦を取り替える。法度を変更するたとえ。

『漢語大詞典』には、「改弦」の項に「亦作 改絃。更換樂器之弦綫、比喻改革制度或變更方法」と説明する。さらに『漢語大詞典』では「改弦更張」として、次のような説明がある。「調換樂器上的弦綫、并重新調音。張將弦繃緊。比喻改革制度、或變更方法」。あわせて次の二例を引く。『漢書』「董仲舒傳」の「竊譬之琴瑟不調、甚者必解而更張之、乃可鼓也。為政而不行、甚者必變而更化之、乃可理也。」の一文及び、『魏書』「高崇傳」の、「且琴瑟不韻、知音改弦更張、駢駘未調、善御執轡成組。」の用例である。